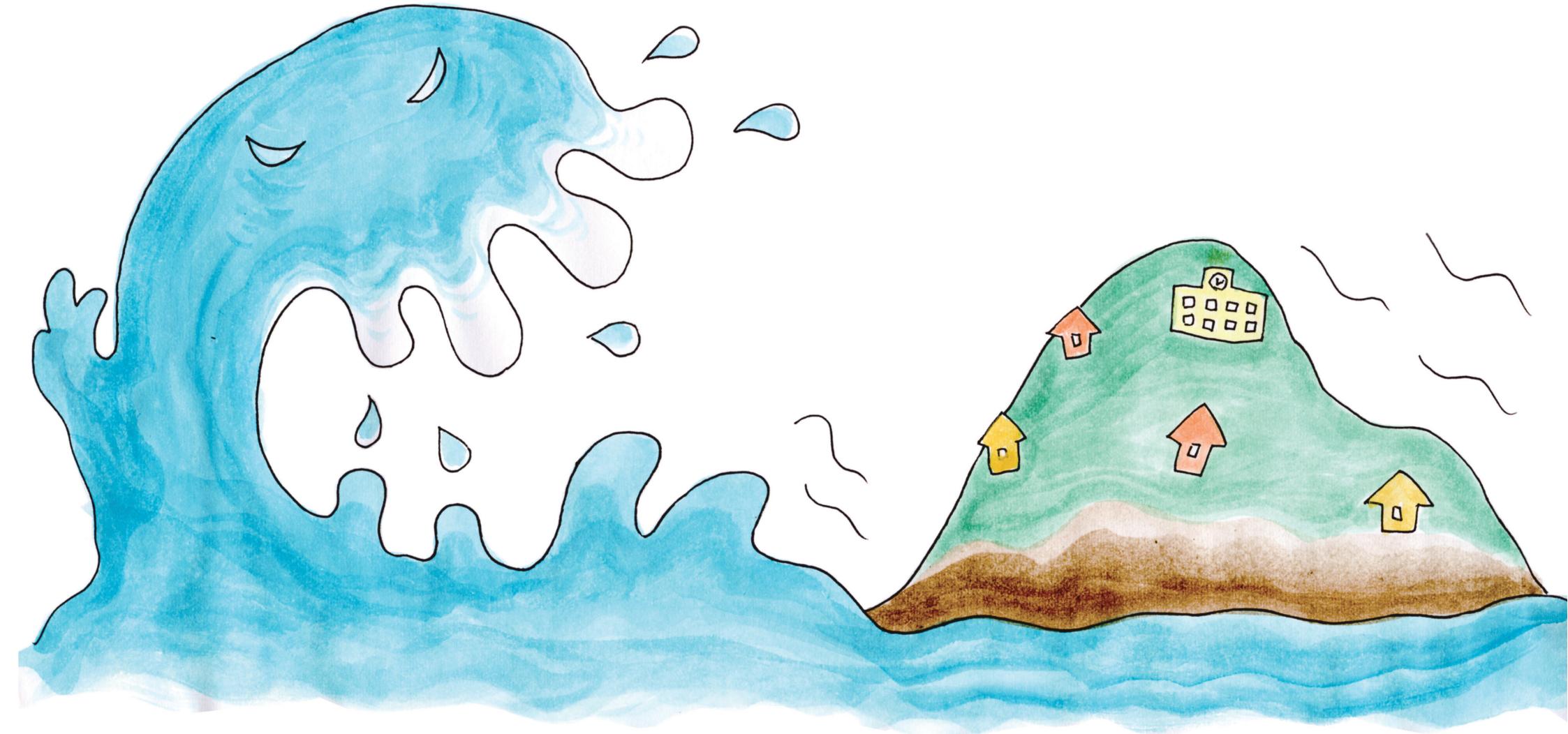
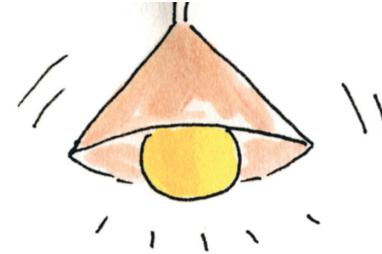


「つぶみがくるぞ」  
「いげやなあかん」





グラ グラ グラ  
われはじめた  
つくえのしたにあぐら



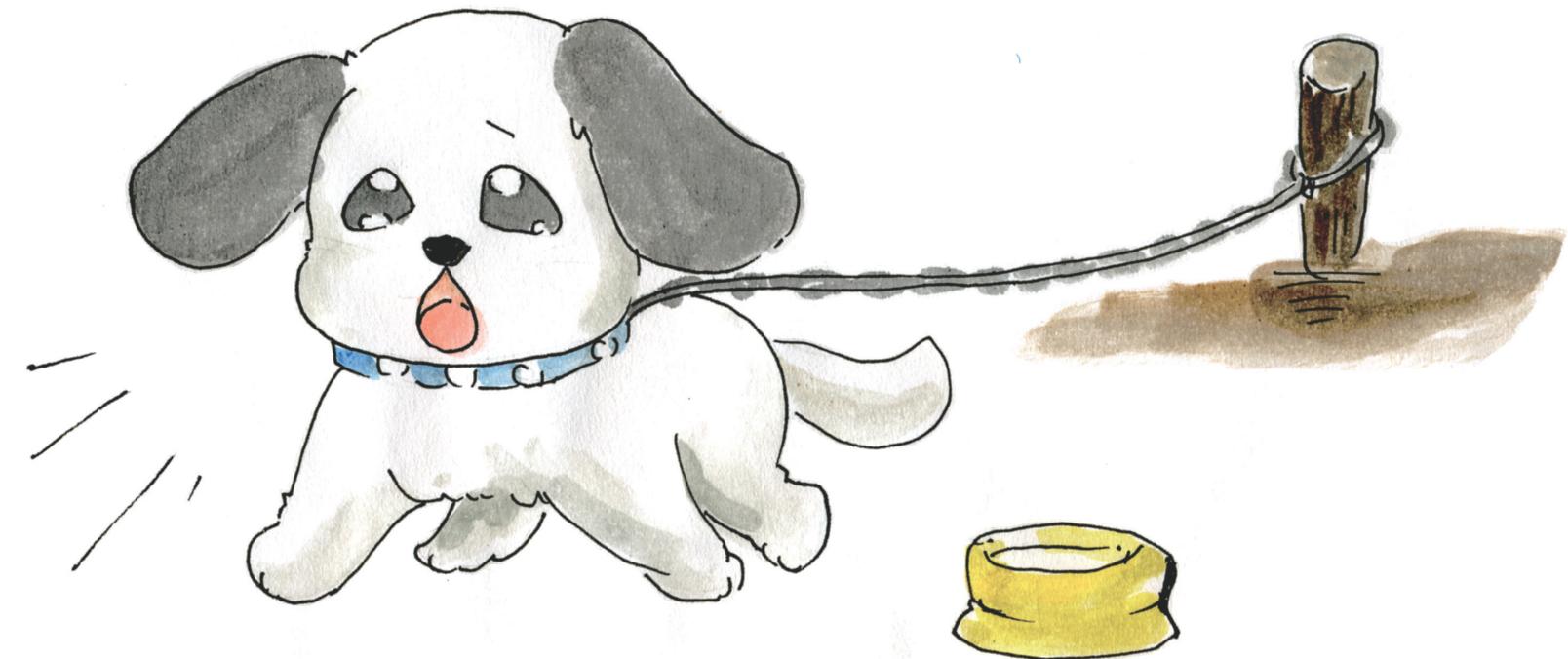
ゆっさ ゆっさ 1分以上

よこ  
横流れ  
だれかがさけば

「つなみが来るぞ」



「にげろ、  
にげろ、  
くちくち  
あけひび  
ながら山へ山へ走る  
さみ  
ホド4が淋しそうに  
キューン、キューンとなく。



つなみ、こんでんこでは  
あろか! <sup>くちくち</sup> 口、口、にさけび  
てながうにけ<sup>こと</sup>る事にした。  
「にけろ、にけろ  
つなみかくろそー！」



なに やま  
何も もたないで 山へ！  
やま  
山に にげろ、にげろ、と  
にげた。



「そうだ。ボクもいつしに  
にげよう」  
アリとぼくはしぶきといしに  
にげろ、にげろ。



やま のぼ

下りか"ハア-ハア-と、山へ登り  
はじ き ぼく  
始めた。元気つけて!僕のズボン  
とトドリのサトちゃんが"ハア-ハア-  
ぼく  
ホナと、僕と、サトちゃんで"  
にげろ にげろ、ハア-ハア-





あと

その後で、と「ヨリのハーフくんも  
つえとつづつうたよる

ぼく  
ホーリーと僕 サトちゃん、ハーフちゃん  
でにげろ にげろ にげろ  
ハーフー。

バーチカルな歌詞

うみ み まえ まえ  
「海を見るな、前へ前へ、  
にいてろ、にいてろ  
ヨイショヨイショ  
さか みち のぼ  
坂道を登ろ  
ウントショウントショウウチ。



みな こえ  
皆で声かけろ

「にげろ、にげろ、ヨイショヨイショ」  
みぎ みち のほ き  
石の道からじいさまが登ってきた。

「にげろ、にげろ、ウントコショ  
ウントコショ」



「ここまで来たう も大丈夫。  
ボクもほんまもサトちゃんも  
じいちゃんも、あの子もこども  
ホット 一息。  
「ボク、ありがとう」



「あれ？ どたぶりのいっちゃん  
いって、とだれかが、  
みな  
皆で、  
「いっちゃんに、  
いっちゃんに、

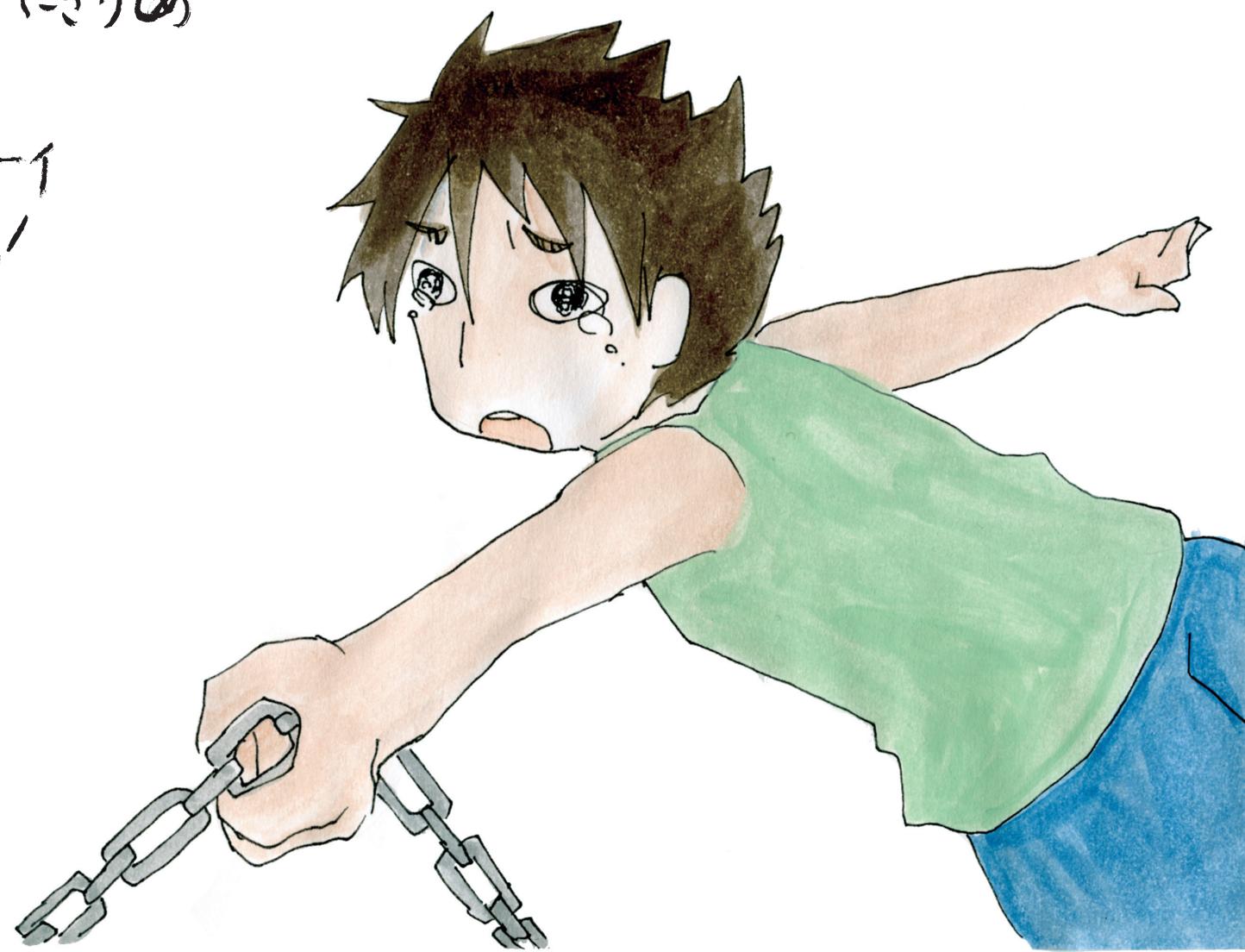


き あし うご  
「ここまでまたう足が動かん」

いちぢんか<sup>な</sup>に立きだけ<sup>る</sup>。  
それ、ヨイショヨイショ、ウントトヨ  
ウントコショ、にげろにげろ、  
とけだけ<sup>る</sup>。



はし だ  
とつせん、ボクが走り出す。  
「ボク、ボク」とさけび。あわて  
いっちゃんがくさりとにぎりしめ  
のぼ き  
登ってきた。  
いっちゃん！パンザーボク。ありがとう！





とお なみ  
遠くで波かうねりてよがう  
あじよせて、来たに。  
へタへタと座りこんで、  
みな いのち  
皆で命あることをたしかめた。



かあ

「ちかんは、どうしてやう」  
き こと かあ  
「いいえ、大事、ちかんのやうやうか  
こ な はじ →  
とよしちちかんかい×ソメソとテクセガメて:  
じかんこばあちかんか 口、口に

だいじょうぶ だいじょうぶ

「大丈夫、大丈夫、いつも、いうところやう」

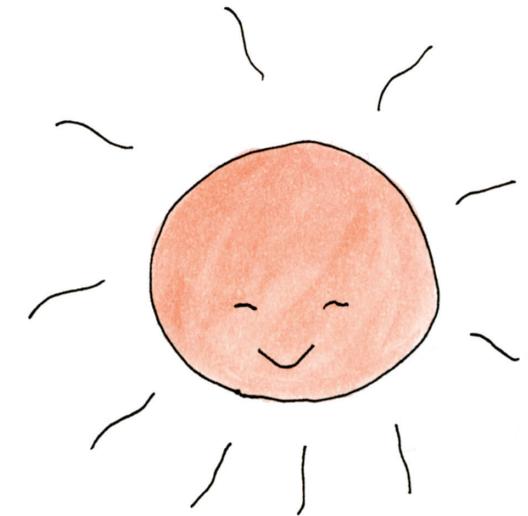




「もしものときは、山へ  
にげよう」と  
「つなみがおさまたら  
かあちゃんと連絡がとれる」  
な  
辺りからあかんこ。  
だきしめる、

き  
えが“つけ”だ

なに  
（もじ）かってように 静かに  
うみ み  
海が見えた。



じちかいちょう

# 自治会長のおじいさんが

い  
メがホンで言う

「あー<sup>みな</sup>皆、ようがんばってなー

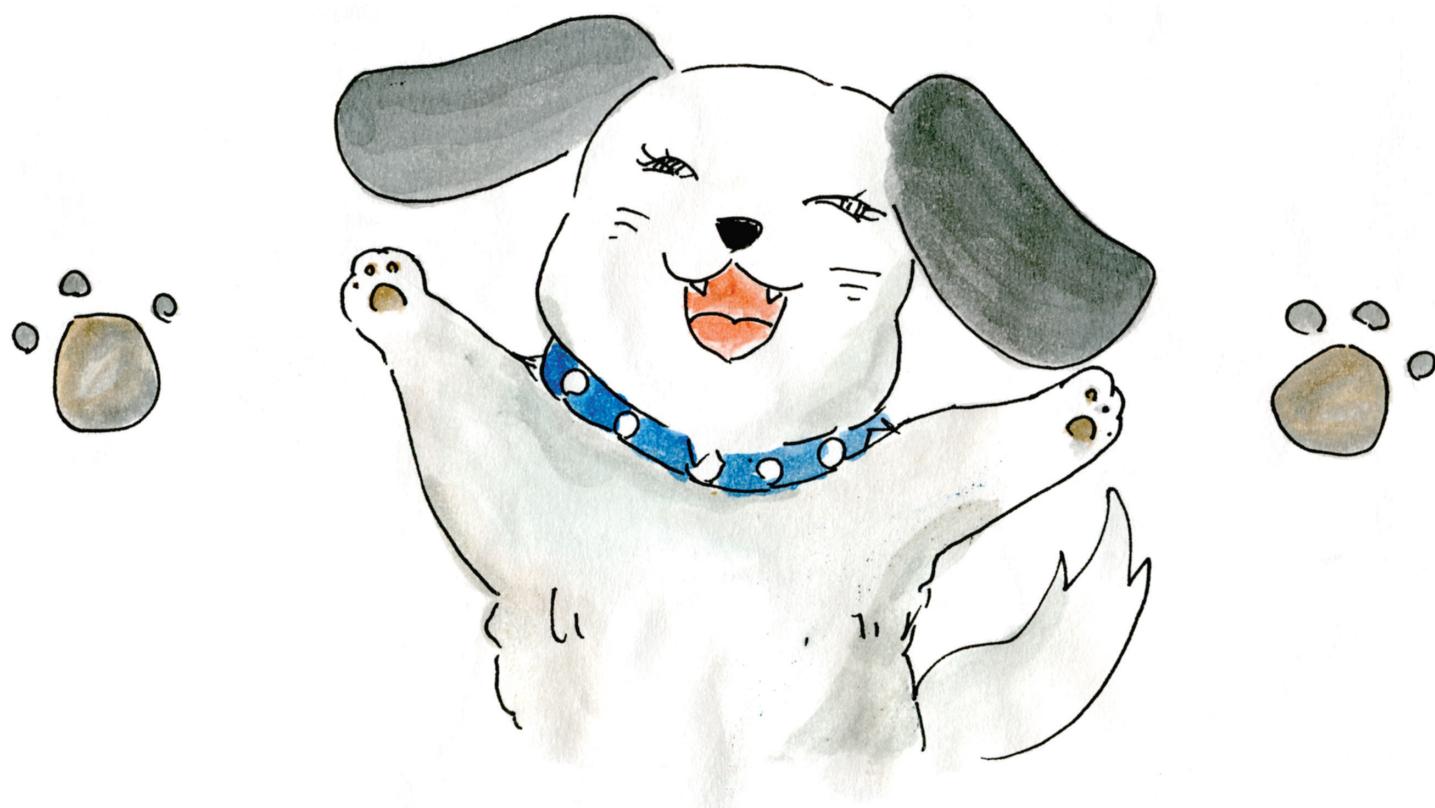
だいじょうぶ やま  
とう丈夫、ゆっくり山と  
みようって。





なに  
「何もなかってたまー、  
「よかってたまー、  
「にげてよかってたまー、  
なんど  
「何度も にげようたまー、  
わら  
わら やま  
」て 笑いながら山と  
おりた。」

下げも元げんき氣きに山やまとぶりた。  
みな ぶ じ  
皆みな、無事ぶじでよがった。



絵／倉田ちひろ  
文／NPO法人 災害ボランティアネットワーク鈴鹿

三重県防災危機管理部地震対策室

〒514-8570 三重県津市広明町13番地

TEL：059-224-2185 FAX：059-224-2199

E-mail jishin@pref.mie.jp

ホームページ <http://www.bosaimie.jp>

平成23年10月発行

